

## 平成24年度 大学院教科教育専攻 英語教育専修

### 英語教育専修の教育研究の目標

英語科教育の教科内容とその教育に関して高度な研究と実践の能力を身につけることを教育研究の目標とする。

### □分野「共通科目」の標準的到達目標

英語の言語としての個別性及び普遍性及び英米の文化、思想及びその歴史の研究を射程に入れつつ、英語教育の理論と実践についての知識を深め、自ら研究するとともに授業を設計できる。

授業科目	言語と文化総合研究	英訳名	Language and Culture		
担当教員	英語教育専修全教員		単位数	2	
開講時期	後期	曜日	火	講時	3
授業形態と概要	講義と演習				
到達目標	英語教員に必要な言語・文化に関する基礎知識を身につけるとともに、教育的見地からコミュニケーションと異文化についての理解を深める。				
授業計画	1. アメリカの自動車(1) 2. 同左(2) 3. アメリカの食物(1) 4. 同左(2) [竝木] 5. ハリウッド創設と移民 6. アメリカン・ファミリーの崩壊 7. 多民族国家とアメリカ 8. 1960年代とアメリカ [君塚] 9. イギリス・テューダー朝の宗教と文化(1) 10. 同左(2) 11. 革命と啓蒙の時代の文化. 12. ヴィクトリア朝の文化 [小林] 13. 教科書と異文化・国際理解(1) 14. 同左(2) [猪井] 15. non-native Teachers [齋藤] (注. 1 3～1 5は授業実践に変更になることがある。)				
成績評価基準	A : 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加し、テーマに沿った充実したレポートを作成できた。 B : 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加し、テーマに沿ったレポートを作成できた。 C : 講義の内容を理解し、議論に参加し、テーマに沿ったレポートを作成できた。 D : 講義の内容が十分理解できず、議論にもほとんど参加しない。テーマに沿ったレポートが作成できてない。				
成績評価の方法	課題レポートを各教員が読み、合議の上で評価する。				
教科書・参考書	各担当教員の指示による。				

授業科目	英語科授業設計	英訳名	Program Development in TESOL		
担当教員	英語教育専修全教員		単位数	2	
開講時期	前期	曜日	火	講時	4
授業形態と概要	講義と演習。外国語の授業における教育活動と授業設計の基礎の導入を行う。				
到達目標	基礎的な言語教育活動とそれらの理論的説明を理解し実行できるようにし、授業の計画を立てられるようにする。				
授業計画	1. 文法指導(1) 2. 同左(2) 3. 教師の言語使用 4. 教師の質問 5. 学習者の言語使用 [猪井] 6. Theorizing basic activities 7. Reading aloud 8. songs&chants 9. Acting out 10. skills and rote learning [齋藤] 11. 英語学の知見を踏まえた授業設計 [竝木] 12. 英文学・文化の知見を踏まえた授業設計(1) 13. 同左(2) [小林] 14. 米文学・文化の知見を踏まえた授業設計(1) 15. 同				
成績評価基準	A : 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加した。テーマに沿った充実した内容の論理の一貫したレポート(英文)を作成することができた。 B : 講義の内容を十分に理解し、議論に参加した。テーマに沿った論理の一貫したレポート(英文)を作成することができた。 C : 講義の内容を理解し、議論に参加した。テーマに沿ったレポート(英文)を作成することができた。 D : 講義の内容が十分理解できず、議論にもほとんど参加しない。テーマに沿ったレポート(英文)は作成できていない。				
成績評価の方法	課題レポートを各教員が読み、合議の上で評価する。				
教科書・参考書	各担当教員の指示による。				

□分野「英語科教育」の標準的到達目標

当該分野の基本的な理論、論点について理解し、説明できる。専門的論文、著書を読むことができ、必要な情報を入手、理解、統合し、自分の意見を述べたり、議論したりすることができる。学術的発表、論文執筆ができる。英語授業遂行上の現時点での問題点を解明でき、改善できる。

授業科目	英語教育学特論 I (英語教授法研究)	英訳名	Theory and Practice in SLA		
担当教員	教授 猪井新一 (英語教育学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	木	講時	2
授業形態と概要	講義及び演習。第二言語(外国語)習得に関する諸相を概観し、日本における英語教育(とりわけ中学校・高校の英語授業)について多角的に考察する。				
到達目標	第2言語習得研究の成果を理解し、より科学的、多面的に日本の英語教育を考えようとする態度を養うこと。				
授業計画	1. Second Language Acquisition(SLA)の概観(1) 2. SLAの概観(2) 3. 誤答分析(1) 4. 誤答分析(2) 5. 習得順序(1) 6. 習得順序(2) 7. 中間言語の可変性(1) 8. 中間言語の可変性(2) 9. 社会的要因(1) 10. 社会的要因(2) 11. 言語転移(1) 12. 言語転移(2) 13. インプット&インタアクション(1) 14. インプット&インタアクション(2) 15. まとめ				
成績評価基準	A : 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加した。テーマに沿った充実した内容の論理の一貫したレポートを作成することができた。 B : 講義の内容を十分に理解し、議論に参加した。テーマに沿った論理の一貫したレポートを作成することができた。 C : 講義の内容を理解し、議論に参加した。テーマに沿ったレポートを作成することができた。 D : 講義の内容が十分理解できず、議論にもほとんど参加しない。テーマに沿ったレポートは作成できていない。				
成績評価の方法	1. 興味あるテーマに関連する英語の文献を要約する。 2. そのテーマに関して日本の英語教育との関連から自分の考えをレポートとしてまとめる。				
教科書・参考書	詳細は最初の授業で指示します。				

授業科目	英語教育学演習 I	英訳名	Analysing Learner Language		
担当教員	教授 猪井新一 (英語教育学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	木	講時	2
授業形態と概要	演習。第二言語(外国語)習得におけるデータ収集方法、データ分析法等についての文献を講読する。				
到達目標	学習者言語収集・分析方法について理解するとともに、実際にデータを収集し、分析できる。				
授業計画	1. Introduction, 2. Collecting samples, 3. Error analysis, 4. Obligatory occasion analysis, 5. Frequency analysis, 6. Functional analysis, 7. Accuracy, complexity, and fluency(1), 8. Accuracy, complexity, and fluency(2), 9. Interactional analysis (1), 10. Interactional analysis (2), 11. Conversation analysis (1), 12. Conversation analysis (2), 13. Sociocultural methods of analysis (1), 14. Sociocultural methods of analysis (2), 15. Summary				
成績評価基準	A : 積極的に授業に参加し、テーマに沿った充実した内容の論理の一貫したレポート(英文)を作成することができた。 B : 授業に参加し、テーマに沿った論理の一貫したレポート(英文)を作成することができた。 C : 授業に参加し、テーマに沿ったレポート(英文)を作成することができた。 D : 授業にほとんど参加しない。テーマに沿ったレポート(英文)は作成できていない。				
成績評価の方法	1. レポーターとしての各章の要約。2. レポート(学習者言語の収集および分析)				
教科書・参考書	詳細は最初の授業で指示します。				

授業科目	英語教育学特論Ⅱ(テスト・評価論概論)	英訳名	Introduction to Language Testing and Assessment		
担当教員	准教授 齋藤 英敏 (英語教育学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	金	講時	3
授業形態 と概要	This course provides with fundamental ideas and concepts about language assessment and testing. In particular, focus is placed on performance assessment and classroom assessment.				
到達目標	1) Can understand fundamentals of performance assessment in L2 classrooms. 2) Can develop skills to apply ideas and theories to actual classroom practice. 3) Can understand issues on classroom assessment research. 4) Can develop English discussion and reading skills.				
授業計画	(1) Introduction (2) Principles (3) Designing tests (4) Standardized testing (5) Standards-based assessment (6) Assessing listening (7) Assessing speaking (8) Assessing reading (9) Assessing writing (10) Alternatives (11) Grading (12) Classical test theory (13) CTT2 (14) Papers (15) Papers				
成績評価 基準	A : Above 90 points when the following items (a) to (e) are totaled. B : Above 80 points when the following items (a) to (e) are totaled. C : Above 70 points when the following items (a) to (e) are totaled. D : Above 60 points when the following items (a) to (e) are totaled				
成績評価 の方法	(a) Attendance 20% (b) Presentations 20% (c) Proposal 20% (d) Homework 20% (e) Participation 20%				
教科書・ 参考書	Brown, H. D. (2004). Language assessment: Principles and classroom practices. White Plains, NY: Pearson.				

授業科目	英語教育学特論Ⅱ(形成的評価)	英訳名	Formative Assessment in the Language Classrooms		
担当教員	准教授 齋藤 英敏 (英語教育学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	水	講時	2
授業形態 と概要	This course is intended to identify the nature of formative assessment. In particular, focus is placed on the relationship between formative assessment and learning.				
到達目標	The student 1) can understand formative assessment in relation with classroom learning, and 2) can develop skills to intergrate theories of formative assessment into classroom practice.				
授業計画	(1) Introduction (2-4) Chapters from Brookhart & Nitko (5-6) Chapters from Andrade & Cizek (7-9) Research studies on formative assessment (10) student presentation on formative assessment activities (11-12) Classroom observations (13) Discussion on classroom observations (14) Wrap up (15) Leeway				
成績評価 基準	A : Above 90 points when the following items (a) to (e) are totaled. B : Above 80 points when the following items (a) to (e) are totaled. C : Above 70 points when the following items (a) to (e) are totaled. D : Above 60 points when the following items (a) to (e) are totaled.				
成績評価 の方法	(a) Attendance 10% (b) Presentations 30% (c) one-page summary and homework 30% (d) final term paper 20% (e) Participation 10%				
教科書・ 参考書	1) Andrade, H. L., & Cizek, G. J. (Eds.). (2010). Handbook of formative assessment. New York: Routledge. 2) Brookhart, S. M., & Nitko, A. J. (2008). Assessment and grading in classrooms. Upper Saddle River, NJ: Pearson Prentice Hall.				

□分野「英語学」の標準的到達目標

英語学(音韻論、形態論、統語論、意味論)と日本語についての基礎的な知識を基に、言語を科学的に研究することを理解・実践するとともに、英語教育においてそれらを活用できる。

授業科目	英語学特論 I (生成文法理論研究)	英訳名	Lecture on English Linguistics I
担当教員	教授 竝木 崇康 (英語学)	単位数	2
開講時期	前期	曜日	火
		講時	2
授業形態と概要	講義形式。生成形態論の研究における基礎的な事実、重要な原理、形態論と統語論・意味論の相互作用などについて講義するが、同時に多くの問いかけをするとともに、積極的な質問や発言を歓迎する。		
到達目標	言語学における考え方と基礎的な知識を身につけるとともに、言語の面白さを自分でも感じ、それらを教室で応用できるようにすること。特に授業で用いる様々な(実物)資料の使い方を考えられるようにすること。		
授業計画	1. 授業の進め方に関するガイダンス、英語学とは何か 2. 語形成とは何か 3. -5. 派生について 4. -6. 複合について 7. -8. 派生・複合以外の英語の語形成の仕組み 9. -11. 派生・複合に課される一般的条件について 12. 語の主要部についての詳細 13. 身近な表現に見られる英語の語形成の興味深い仕組みの相互作用について 14. 同左 15. まとめ		
成績評価基準	A: 講義の内容を十分理解し、積極的に議論に参加し、テーマに沿った充実したレポートを作成できた。 B: 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加し、テーマに沿ったレポートを作成できた。 C: 講義の内容を理解し、議論に参加し、テーマに沿ったレポートを作成できた。 D: 講義の内容が十分理解できず、議論にもほとんど参加しない。テーマに沿ったレポートが作成できてない。		
成績評価の方法	期末のレポート(60%)と授業における発言や質問に見られる積極性や参加の程度など(40%)を総合して評価する。		
教科書・参考書	竝木 崇康 『語形成』, 新英文法選書第2巻, 大修館書店, ¥1,680.		

授業科目	英語学演習 I	英訳名	Seminar in English Linguistics I
担当教員	教授 竝木 崇康 (英語学)	単位数	2
開講時期	後期	曜日	金
		講時	2
授業形態と概要	演習形式。派生形態論(語形成)における重要な英文文献を最初は精読し、途中から要約することにより、要点をつかむようにする。		
到達目標	学部より専門性が高い英文の文献を精読と要約によって理解し、それに基づいて英文のレポートを書くようにすること。		
授業計画	1. 授業の進め方に関するガイダンス 2. 以降は、教科書の第19章 Lexical Word-formation を1回2~3ページのペースで演習形式により読み進める。 15. 以上のまとめ		
成績評価基準	A: 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加し、テーマに沿った充実したレポートを作成できた。 B: 講義の内容を十分に理解し、積極的に議論に参加し、テーマに沿ったレポートを作成できた。 C: 講義の内容を理解し、議論に参加し、テーマに沿ったレポートを作成できた。 D: 講義の内容が十分理解できず、議論にもほとんど参加しない。テーマに沿ったレポートが作成できてない。		
成績評価の方法	期末のレポート(60%)と演習における予習状況(20%)、質問や発言における積極性(20%)を総合して評価する。		
教科書・参考書	Ch.19 of <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> , ed. by Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum, Cambridge University Press.		

□分野「英米文学」の標準的到達目標

アメリカ・イギリスの文学作品を、テキスト理解を中心に、異文化理解・学際的視座に立ち、歴史や文化、思想、社会背景などの知識を備えた上で、批評・分析できる。

授業科目	英米文学特論Ⅰ（アメリカ研究）	英訳名	Lecture on American Literature I
担当教員	教授 君塚 淳一（アメリカ文学）	単位数	2
開講時期	前期	曜日	月
		講時	3
授業形態と概要	授業形態は主として講義（英文資料を読んでもらうこともある）。アメリカ文学を論じながら、アメリカの人種問題を扱う。特に今回は英文テキストや映像資料（映画など）は「子供」を中心に扱ったものを用いる。		
到達目標	アメリカ文学中の「子供」を主人公にした小説を通して、人種、民族、そしてアメリカを理解する。		
授業計画	第1回オリエンテーション、第2回差別とは、第3回アフリカ系①、第4回アフリカ系②、第5回アフリカ系③、第6回Richard WrightのBlack BoyとNative Son、第7回ユダヤ系①、第8回ユダヤ系②、第9回ユダヤ系③、第10回Michael GoldとJews Without Money、第11回日系アメリカ人①、第12回日系アメリカ人②、第13回日系アメリカ人③、第14回Jeanne Waktsukiと Farewell to Manzanar、第15回まとめ		
成績評価基準	A： 演習の内容と課題を十分に理解し、英語力の十分な応用力が身についた。 B： 演習の内容と課題を十分に理解し、英語力が伸びた。 C： 演習の内容と課題をおおよそ理解した。 D： 演習の内容と課題が十分に理解できない。		
成績評価の方法	講義全体についてのレポート、授業内での与えられた課題についてのプレゼンテーションなどにより、総合的に判定する。		
教科書・参考書	参考書『アメリカ映像文学に見る少数民族』（大阪教育図書）		

授業科目	英米文学演習Ⅰ	英訳名	Seminar in American Literature I
担当教員	教授 君塚 淳一（アメリカ文学）	単位数	2
開講時期	後期	曜日	月
		講時	4
授業形態と概要	授業形態は演習。多民族国家アメリカの中でも、ユダヤ系アメリカ人作家Bernard Malamudの短編を読み英語の応用力をつけると共に、多民族で構成されるアメリカ、19世紀から20世紀のアメリカ移民史、また第二次世界大戦中のホロコーストなどをはじめ人間の苦悩が巧妙に描かれたその背景知識を学ぶ。		
到達目標	学校英語教育において益々、重要度が増す異文化教育の中で、英語力をつけると共に他文化への知識を教師自身が身につけることは重要である（高校readingテキストProminenceにはMalamud“A Summer’s Reading”が、また中学校テキストTotalには“Anne’s Diary”や“I Have a Dream”などが掲載）。高校英語教師に必要な英語力と共にアメリカ文学・文化の知識を身につけることを目標とする。		
授業計画	1. 異文化理解と多文化・多民族研究（アメリカの多文化主義教育）2. アメリカの民族と人種3. ユダヤ系アメリカ人と移民の歴史4. アメリカにおける伝統文化継承の意味“The Magic Barrel”①5. “The Magic Barrel”②6. “The Magic Barrel”③7. ホロコーストとユダヤ系（1）“The Lady the Lake”①8. “The Lady the Lake”②9. “The Lady the Lake”③10. ホロコーストとユダヤ系（2）“The German Refuge		
成績評価基準	A： 講義の内容と課題を十分に理解し、英語力の十分な応用力が身についた。 B： 講義の内容と課題を十分に理解し、英語力が伸びた。 C： 講義の内容と課題をおおよそ理解した。 D： 講義の内容と課題が十分に理解できない。		
成績評価の方法	授業内での英文テキストについての理解度、全体内容についてのレポート提出、課題研究発表を総合的に判断する。		
教科書・参考書	教科書：The Stories of Bernard Malamud 参考書『ユダヤ系アメリカ短編の時空』（北星堂）		

授業科目	英米文学特論Ⅱ	英訳名	Lecture on English LiteratureⅡ
担当教員	准教授 小林 英美 (イギリス文学)	単位数	2
開講時期	前期	曜日	金
		講時	4
授業形態と概要	イギリス・ロマン主義時代 (18世紀末-19世紀初頭) の作品を扱い、テキスト読解にもとづいた講義を行なう。「革命期」という歴史的・文化的背景への理解を深めながら、当時の詩人の様々な特質を論じる。作品の音読練習も行なう。毎時出席の確認をする。		
到達目標	18世紀末から19世紀初頭のイギリスの詩を読み、歴史的・文化的背景をふまえた作品分析と鑑賞ができる。		
授業計画	1. イントロダクション：イギリスの風土と歴史の概論 2. ロマン主義時代の歴史・文化の概論 3. 3回目以降は、同時代詩人の作品についての各論となる。対象作品は、最初の数回はワーズワスを中心に行なうが、その後は受講生との相談によって決定する。予習として作品を読んできた上で、作品解釈と詩の音読指導を行なう。		
成績評価基準	A：講義した詩人とその作品を、歴史・文化的背景をふまえて深く理解し、論理的に分析し、鑑賞も優れている。 B：講義した詩人とその作品を、歴史・文化的背景をふまえて十分に理解し、論理的に分析・鑑賞できた。 C：講義した詩人とその作品を、歴史・文化的背景をふまえておおよそ理解した。 D：講義した詩人とその作品を、歴史・文化的背景をふまえて十分に理解できない。		
成績評価の方法	講義内容に関するレポートを学期末に提出する。成績の割合は、学期末レポート：60%、授業参加：40%である。		
教科書・参考書	授業時に該当内容のハンドアウトを提供する。参考資料は随時配布する。		

授業科目	英米文学演習Ⅱ	英訳名	Seminar in English LiteratureⅡ
担当教員	准教授 小林 英美 (イギリス文学)	単位数	2
開講時期	後期	曜日	火
		講時	2
授業形態と概要	イギリス19世紀中期から後期の小説・散文とその読者層に関する研究書を精読する。「産業革命の完成期」という歴史的・文化的背景から分析しながら、当時の作家の様々な特質を考察する。		
到達目標	イギリス19世紀中期から後期の小説・散文を読み、歴史的・文化的背景をふまえた作品分析と鑑賞ができる。		
授業計画	1. 19世紀までの英国文学史と19世紀英国の社会と文化概論、作品選定 (学生と協議して読む作品を選ぶ) 2. 作家と作品概論、研究方法等 3. これ以降、14回までは基本的には次のように進める。学生は作品を予習として読んで来る。特にレポーターとなった学生を中心にして、該当箇所翻訳とディスカッションをしながら作品解釈をする。音読の指導もあわせて行なう。また随時、教員が用意した同時代社会と読者層に関する研究書も読むことになる。15. 総括		
成績評価基準	A：積極的に授業に参加し、演習で対象とした作家とその作品を、歴史的・文化的背景をふまえて深く理解し、論理的に分析し、鑑賞も優れている。 B：授業に参加し、演習で対象とした作家とその作品を、歴史的・文化的背景をふまえて十分に理解し、論理的に分析・鑑賞できた。 C：授業に参加し、演習で対象とした作家とその作品を、歴史的・文化的背景をふまえておおよそ理解した。 D：授業にほとんど参加せず、演習で対象とした作家とその作品を、歴史的・文化的背景をふまえて十分に理解できない。		
成績評価の方法	授業での発言・参加態度：40%、期末レポート：60%の割合で評価する。		
教科書・参考書	教科書：読む作品の決定後に指示する。作品が決定するまでは教員による配布資料を使う。参考書：『読者の台頭と文学者』（世界思想社）と、随時配布する資料。		